

# 蘇州だより

蘇州日本人学校  
教諭 櫻井 紀邦  
令和4年7月23日

No.13

28日から夏季休業となります。私にとっては、蘇州での最後の夏休みとなります。とはいえ、この暑さではなかなか出かける気になりませんが。

## 暑い

蘇州の夏は暑い！今年の7月は最高気温40℃以上、最低気温30℃以上の日々が2～3週間続きました。蘇州は水の都といえは聞こえはいいですが、湿度は常に高いので体感している暑さはなかなかのものです。赤道直下の日本人学校で勤務した経験がある同僚も蘇州の方が暑いと断言しています。私は子どものころから暑さが苦手、夏より断然冬が好きですし、また冷房が苦手な冷え性でもあるので、参ったなあという日々です。学校でも、自宅でも24時間エアコンなしでは生きてはいけません。しかし、そんな暑い中でも配達員のバイクは走り回っていますし、街のあちこちに立っている警備員や清掃員はいつもと変わらず働いています。身体は大丈夫なのだろうかと心配になります。私は、自宅と学校の片道25分の歩きだけでぐったりです。

学校にもこの暑さは大いに影響があります。熱中症指数は常にとんでもない数値をたたき出し、外での活動は禁止の毎日です。校外学習はほぼすべて中止。子供たちは毎日空調のきいた室内で過ごしています。幸い、体育館もエアコンがついているので、体育はできます。運動場が改修され、張り替えが完了した美しい人工芝のグラウンドも教室から眺めるだけとなっています。暑さで水泳ができない日も多くありました。熱中症指数が高いこともあります。水温が34℃を超えるようでは、さすがに水泳指導はできません。水道水を足して、オーバーフローしてみても？との意見もありましたが、よく考えたら水道から出てくる水はほとんどお湯ですので、ほぼ効果なし。考えられるだけの配慮をして、熱中症指数が低めの日（といっても常に基準越えではありますが）に、短時間で水泳指導を実施しました。

暑いからといって、子どもたちがずっと室内で過ごしては、子どもたちもいつまでも身体が暑さに慣れず、かえって心配です。夏休み明けには、運動会の練習も始まります。そこで、短時間ではありますが休み時間に1年生の子どもたちを外に連れ出し、だるまさんがころんだや靴飛ばしなどをして、暑さに慣れる機会を設定しています。キラキラ照り付ける日差しの強烈さに緯度の低さを実感します。身体が焦げそうです。

そうそう、1年生が育てている朝顔が蕾のまましておれてしまい、なかなか花が咲いたところが観察できなかったのですが、原因が分かりました。気温が高すぎて、花びらが広がる前にしおれてしまうのです。ベランダからエアコンのきいた教室に入れたら、咲きました。子供たちは大喜びでした。草花を育てた経験や、虫取りをした経験がない子が多いのも日本人学校の特徴です。小さい頃から都会のマンション暮らししかしたことのない子もいます。だからこそ、朝顔の鉢に手で土を入れる体験が貴重なのです。子供たちにとっては、土や草花に触ること自体が新鮮で、わくわくの体験です。

蘇州は緑茶の名産地です。春に中国の方に茶摘みに連れて行ってもらいました。お茶の木は、日本と異なり、山の斜面に自由に枝を伸ばしています。新芽のみを摘みます。お茶の製法は日本とかなり違いました。

